

ジャパンナレッジの解説と活用例の紹介

ジャパンナレッジは、小学館グループのネットワーク・パブリッシング・カンパニー、株式会社ネットアドバンスが提供する最大・最強の知識探索支援サービスです。今日のように、あらゆるジャンルの情報が無秩序に氾濫するインターネット時代において、国内外の出版、コンテンツホルダー各社の優良な事典・辞書コンテンツを中心に、30以上の高品質かつ膨大な知識を、デジタルデータの形でお客様に提供しています。

標準搭載コンテンツとしては、「日本大百科全書（小学館）」、「日本人名大辞典（講談社）」、「現代用語の基礎知識（自由国民社）」などの事典系コンテンツ、「デジタル大辞泉（小学館）」、「ランダムハウス英和大辞典（小学館）」などの辞書系コンテンツ、「東洋文庫（平凡社）」などの書籍系コンテンツ、また、「週刊エコノミスト（毎日新聞社）」、「NNA：アジア&EU国際情報（NNA）」、「会社四季報（東洋経済新報社）」などの記事系コンテンツ、歴史的場面の映像記録や動植物の映像などのライブラリコンテンツなど広範囲に及んでいます。また更に、専門性の高い「日本国語大辞典（小学館）」、「日本歴史地名大系（平凡社）」、「国史大辞典 Web（吉川弘文館）」（2010年7月リリース予定）がセットになったパッケージも用意しています。

ジャパンナレッジは、これら多くのコンテンツの中から、自分が調べたい事柄や言葉など（キーワード）を検索窓に入力、検索ボタンを押すことで、簡単に利用することができます。検索方法も幾つか種類があり、まず第一に、中心となる基本検索においては、検索窓に調べたい事柄や言葉など（キーワード）を入力、検索ボタンを押すことで、信頼性の高い30以上のコンテンツに一括検索をかけ、該当する結果を表示します。検索結果は、辞典・事典系と記事・叢書系と上下に分かれ表示され、辞典・事典系の検索結果については、検索窓に入力したキーワードと完全一致した見出しから順に表示され、調べたい事柄や言葉にいち早く到達できます。検索結果の中から、調べたい見出しを更にクリックすることで、本文画面が別ウインドウで開き参照することができます。本文画面には、本文テキストだけでなく、メディアや関連項目、関連サイト、参考文献などのデータも表示されます。（すべてのコンテンツに表示されるわけではありません。）第二は、ジャパンナレッジを使い慣れた方や、司書、図書館員の方用として詳細検索を用意しています。詳細検索は、3つに増えた検索窓でAND、OR、NOT検索ができ、検索範囲については見出しに限らず、全文などを指定したり、検索条件においては、後方一致や部分一致など、さまざまな条件設定ができます。また詳細検索については、検索結果をコンテンツ、表記読みなどの順で並び替え（ソート）することができます。第三は、個別検索です。ジャパンナレッジの特徴としては、多くのコンテンツを一括検索できることですが、最初から特定のコンテンツのみをそのコンテンツの特性を活かした形で検索できる個別検索を用意しています。例えば、「日本大百科全書」の場合では、大分類、中分類、小分類の順に絞り込んでその該当の項目を見つけたり、「誰でも読める日本史年表」の場合では、人名や事項名で範囲を限定したり、西暦や和暦で検索対象を絞ることができます。

この他、ジャパンナレッジの便利な機能としてナレッジサーチャー（Knowledge Searcher）機能を設けています。ナレッジサーチャー機能とは、本文画面の内容を見ながら、わからない言葉や外国語、派生的に調べたい事柄などを、検索画面に戻ることなく検索することができ、非常に便利に利用できます。

以上のとおり、ジャパンナレッジの内容、機能について記述してきましたが、高校での具体的利用シーンとしては、「調べ学習」や「論文作成」、「課題研究」などで活用できます。次に具体的活用方法として、「ジャパンナレッジを使ったレポート作成法」について、以下に概略を説明します。

- ① まずは、信頼性のある事典・辞書を使って、テーマとなる事項の概要・通説をしっかりと押さえ、知識の基礎を作る。
- ② 百科事典の参考文献や関連項目を調べたり、全文検索を行うことで、テーマ周辺の関連事項（関連項目）を洗い出す。必要に応じて、他のデータベースや図書資料にあたり、それらの関連項目の内容を深化させる。
- ③ ②で調べ上げた関連項目と主要テーマの関連性をまとめてみる。必要であれば、それらの関係性を図式化することで情報の薄い部分を視覚化し、それを補完する資料の収集をする。
- ④ テーマを絞り込み、絞ったテーマを元にアウトラインを作ってみる。
- ⑤ レポート作成に着手する。疑問が出てきたら②に戻って資料を探し、④のアウトラインの組み換えを行い、レポートの修正を行う。

このようにジャパンナレッジは確かな情報源から頭の整理を行い、レポート作成時に非常に有効な一つのツールとなりえます。

また今後、ジャパンナレッジはコンテンツを随時追加していきます。今年度中には、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語の辞書を搭載（既に、フランス語は搭載）、更には、小学館の「新編 日本古典文学全集」全 88 巻を約 2 年かけて全頁閲覧可能な形で搭載を予定しています。来年度の一番大きな搭載コンテンツとしては、吉川弘文館の「国史大辞典」を予定しています。